

## 活動の記録

8月22日(土) - 8月30日(日) ヒナノシヤクジョウとホンゴウソウ探しの臨時活動。

8月22日、新井通子さんは「ヒナノシヤクジョウの自生地にはホンゴウソウが自生する」と確信し、単身入林し、16日の活動日に秋元さんがヒナノシヤクジョウを見つけた北斜面にホンゴウソウの群落を見つけました。

8月30日(日) 栗山・坂本・真鍋の3名は入林し、北斜面で秋元さん発見のヒナノシヤクジョウと、新井さん発見のホンゴウソウを観察・撮影、ヒナノシヤクジョウ3株、ホンゴウソウ約90株でした。(真鍋)



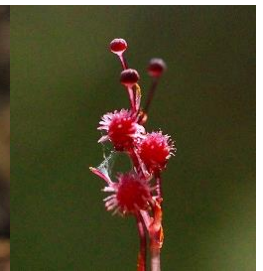
北斜面で自生地を探し撮影



ヒナノシヤクジョウ



ホンゴウソウの群生



ホンゴウソウの花

## ヒナノシヤクジョウとホンゴウソウ

今回見つかったヒナノシヤクジョウ(ヒナノシヤクジョウ科)とホンゴウソウ(ホンゴウソウ科)は、いずれも菌従属栄養植物で千葉県レッドデータブックでは「最重要保護生物：A」となっています。両種とも雑木林などの林内・林縁の湿潤で腐葉土のある所に生育し、花期も揃って7月～10月という面白い植物です。

ホンゴウソウは微小で繊細なうえ黒紫なので探すのは困難ですが、白くて目立つヒナノシヤクジョウが見つければ簡単にホンゴウソウが発見出来ます。(新井通子)

## ヒナノシヤクジョウ

ヒナノシヤクジョウ科ヒナノシヤクジョウ属の白色の多年草です。白い筒状の部分一つ一つが花です。筒状に見えるのは外花被片が合着したもので外花被片は先端で小さく3つに分かれて開き、内側は黄色です。内花被片は外花被片の間に、ずっと小さな突起状になってあります。茎には退化した細い鱗片状の葉(鱗片葉)があります。草丈は3cm～15cmです。



ヒナノシヤクジョウ(8・16)



ヒナノシヤクジョウの花

右側写真はつぼみが2個、開いた花が1個、閉じた花が4個です。花はいつも一つで、二つ同時に咲くことは無い様です。

記事は下記ウェブサイトより引用しました。

<http://srsrkrkr.seesaa.net/article/453311854.html>

<http://mikawanoyasou.org>

(秋元)



豊英島のヒナノシヤクジョウは8月16日撮影、上段の8月30日撮影画像とも全て「閉じた花」です。(栗山)

## 9月22日（火；秋分の日）曇

9月の活動日は4連休の最終日となりました。行楽地は久しぶりに賑わったようですが、豊英島はいつものように静かに迎えてくれました。

途中雨がパラつく時間もありましたが、午前中はニホンジカ調査を行い、久しぶりにシカを目撃することができました。午後からは、植生保護柵の設置に力を合わせて取り組み、その合間を縫って、植物、昆虫、野生キノコの調査を行う慌ただししい一日でした。

また、昨年の台風被害に加えてナラ枯れの拡大もあり、森の様子が大きく変わろうとしています。そういった中で、これからの森づくりの方向について、まずはギャップ林の今後の具体的な管理についてザックバランな意見交換をしました。

なお、会員の岩崎さんが亡くなったとの連絡を受け、活動前に全員で黙とうを行い、ご冥福をお祈りしました。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、及川、苅米、栗山、坂本、田島、成沢、福島、真鍋、村野、12名でした。（伊藤）



参加は12名



ギャップ林今後の管理について意見交換

## 〇ニホンジカ生息状況調査

朝一番の調査として、ニホンジカ生息状況調査を行いました。3か月に1回行っている調査で、今回は年4回のうちの2回目となります。ニホンジカはそろそろ発情期に入るため、雄ジカがいるかもしれないと調査開始前から期待が高まりました。

調査は、いつものように島内を7コースに分かれて一斉に踏査し、発見したニホンジカを記録するという方法で実施しました。調査時間は10:10～10:40です。

結果は、ホテイ岬方向の7コースを踏査した坂本さんがニホンジカ3頭を目撃、6コースの鶴沢さんは同一個体と思われる鳴き声を確認、及川さんがこれも同一個体と思われる2頭を目撃しました。

坂本さんによると、3頭は湖に飛び込み対岸に上陸したとのことでした。雄ジカは見つかりませんでした。久しぶりに3頭が確認されたという結果となりました。みなさんお疲れさまでした。（福島）

### ・シカ目撃記

シカ調査ではホテイ岬方面に向かう7コースを担当しました。ホテイ竹林に来た時、ドドッと足音がして走る物のシルエットが一瞬見えました。その後キョッ！と短い鳴き声が2回聞こえましたが、警戒の鳴き声だったと思います。

6コースにも人がいるので静かにしていたら戻って来るかなと思って待っていたところ水に飛び込んだような音が聞こえたので、急いで水面の見通せる岸へ走ると



3頭が頭だけを水面から出して釣り橋と並行に泳ぎ対岸に向かうのが見えました。

50m以内にバス釣りのボートは浮いていましたが、釣り人の動きから見てシカには気づいていなかったようです。よほど釣りに集中していたのか、シカが音も無く泳ぐので気づかなかったのかも知れません。（坂本）

## ○今月の花



シュスラン



ヤマハギ



シラヤマギク



キハギ

ここ数年見ていなかったシュスランが北側斜面に2株ありました。長卵形の葉は暗緑色で中央の脈が白くはっきりとしていて、容易に同定ができます。一株には淡いクリーム色をした花が一輪付いていました。とても心地良い気持ちになる花だと思いました。この後、前回発見したヒナノシャクジョウの生育する条件に似た禁断の岬へと向かいヒナノシャクジョウを探しましたが確認出来ませんでした。前回発見した箇所も同様に確認出来ませんでした。時期を逸したようです。禁断の岬の北側斜面にはサンショウが鮮やかな赤い実を樹冠いっぱいにつけていました。

ギャップ林ではシラヤマギクがあちこちに散らばったように咲いていました。ハギの花（ヤマハギ、キハギ等）は咲き始めで、これからが見頃です。（秋元）

## ○ギャップ林の今後の管理について

前回に引き続きこの地区の調査活動の在り方についてご意見を伺いました。提案者側のコンセプトが明確でない為、会員各位のご意見をまだまだまとめきれていませんが漠然とした方向性は見出されたように思います。次年度からの調査活動ができるように、具体案を示し意見の集約を目指したいと思います。（秋元）

## ○昆虫観察記録

時折雨が降り、気温も低めのため虫の姿はあまり見られません。秋の鳴く虫たちは控えめに鳴いて、自分たちがいることを知らせています。保護柵内は植物の種数も多く花も見られることから、雨の中でもキタキチョウがよく飛んでいました。

林内を歩くと、顔や服にジョロウグモの網がべったり。クモはこの住人、私達は月に一度のお邪魔虫なので、できるだけ網を壊さないように気をつけて歩きました。突然、足元からオオスズメバチが数頭飛び出しビックリ！数は多くないのですが、ハチが出入りしていることから巣があるに違いありません。人が近づくと危険なので、伊藤さんと成沢さんに頼んで巣の周りに黄色いテープを張ってもらいました。他にも、モンズズメバチを見かけたので、どこかに巣があるかもしれません。

鶴沢さんがオオゴキブリの幼虫を捕まえてくれました。ツヤツヤで平べったく、つかむと指からスルッと逃げ出します。これは朽ち木の隙間で、朽ち木を食べて育つゴキブリで、棲家に適応した体をしているものだと納得。セルロースの消化を助ける微生物を体内の消化管に持ち、分解者の役割を果たしているオオゴキブリは大切な森の一員です。



キタキチョウ



オオスズメバチ



モンズズメバチ



オオゴキブリ

(他に観察された昆虫) オオカマキリ、モリオカメコオロギ、コバネヒシバツタ、カネタタキ、シマサシガメ幼虫、アオバハゴロモ幼虫、フタホシアトキリゴミムシ、コナラシギゾウムシ、カクモンオオキノコ、ルリチュウ

レンジ、キンケハラナガツチバチ、トラマルハナバチ、トゲアリ、ヒサマツムシヒキ、ツバメシジミ、ムラサキシジミ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、クロコノマチョウ、オスグロトモエ、ホタルガ、ヒメウコンエダシク、アシベニカギハ幼虫、クスサン繭殻

(観察されたクモ) オウギグモ、ジョロウグモ、オオシロカネグモ、ワカバグモ、ムラクモヒシガタグモ、ワキグロサツマノミダマシ、シャコグモ、ヤマトゴミグモ、マミジロハエトリ、デーニツツハエトリ (田島)

## 〇きのこ色々

きのこが色々ありました。特にベニイグチなどイグチ科のきのこが沢山ありました。(真鍋)



きのこ色々



ベニイグチ



キイロイグチ



コガネヤマドリ



アカヤマドリ(成沢)



コガネクバナイグチ



ハラタケ属



ウコンハツ



ノウタケ

## ○カシノナガキクイムシによる被害

千葉県各地でカシノナガキクイムシの被害が報告されています。

豊英島では、2019年9月にカシノナガキクイムシのコナラに対する穿孔が初めて確認され、調査の結果49本（立木46本、伐採木3本）に大量の穿孔が確認されました。樹種はすべてコナラでした。今回も全島ではないが根元に落ちたフラスを確認しました。調査区域はつり橋からホコラ山下までの湖岸側～千年広場～ホテイ岬までの東岸、西岸（千年広場～禁断の岬については調査していない。）

（調査結果）コナラ408本について調査の結果は以下の通りでした。

- ・フラスを認めなかった生木356本、
- ・フラスを確認した生木49本、
- ・枯死木2本（カシノナガキクイムシにより枯死したかについては不明）、
- ・倒木1本でした。

千年広場からホテイ岬までの間にフラスを確認したのは生木2本のみでした。（栗山）



新しい？フラス



古い？フラス



異なる形状のフラス

## ○植生保護柵の設置

益々激しくなるシカ食害対応として、植生保護柵を100m増設する作業を行いました。

苅米さんの指揮のもと男性8人で設置しましたが、水系を張って法線と高さを合わせて2mピッチで支柱を打ち込みました。次第に息が合ってきて作業が終わるころには、一直線に支柱が並び、なかなか壮観でした。次回、支柱にネットを張って完成です。

今回は既存ネット内から地下茎が伸びることなどを期待して、既存ネットと離さずに増設しましたが、防護ネットの適切な広さについては、注意深く見守っていきたいと思います。（伊藤）



支柱が一直線に並び

## ○ヤマザクラ倒木の玉切り-広場用のベンチ新調

広場のイスが腐朽してきたので、イスを新調しました。昨年の台風で倒れた桜の木を玉切って、丸太イスを全部で22脚。桜の丸太は、太いものでは直径30センチ以上ありました。また、まだまだ水分を含んでおり、とっても重かったあ～。久々の参加で、いい運動になりました。

作業は、苅米さん、村野さん、鶴沢さん、成沢で行いました。（成沢）



ヤマザクラベンチ22脚

## ○10月に備えて草刈り

農地脇の駐車場スペースに夏草が生い茂り、高いものでは50 cmを超えていました。駐車するにも地面が見えないので先頭車は恐る恐る乗り入れ、後続車はその轍の後に列を作って進みました。来月は公開行事で、多くの駐車スペースが必要になる為、シカ調査の後で草刈りしました。午前には半分、昼食後に皆さんの車を移動して貰って残りの半分以上を刈りました。彼岸も過ぎたのでこれからは草の伸びも治まり、来月の行事開催に支障無いと思います。(坂本)

## ○イノシシの狼藉

里芋の植えてある農地の土手や作物の畝などに土を掘り返した跡が沢山ありました。電柵の何処かに破れがあってそこからイノシシが侵入したのは間違いありません。



里芋の根を掘り返し



イノシシの狼藉後

これまで散々シカに悩まされた上、イノシシの害があつてはたま

らないと思いましたが、栗山さんによれば、生の里芋は蔞酸が有るので口にすると口や喉を刺激してイノシシにも食べられないそうです。そう言えばミミズを探して土を掘り返し、里芋も掘り倒されていましたが、かじられた様子はありませんでした。全滅することは無さそうです。(坂本)

## お知らせ

次回活動日は10月12日(月)で、吹春講師をお招きして秋の野生キノコ観察会です。第3日曜日ではなく、平日の開催ですのでご注意ください。

コロナ対応もあり、会員に加え一般参加者10名限定で実施する予定です。会員も、会員外の方も、必ず事前申し込みをお願いします。詳細はチラシをご覧ください。行事保険に必要ですので、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。9時30分に清和県民の森木のふるさと館駐車場集合です。